

# Uターンで地域に活力を！

## 移住先に選ばれるまちをつくる

一同 明けましておめでとうございます。

**市長** 今日は「Uターン」がテーマということで、実際にUターンをして鶴岡に移住された方、Uターンを地域で受け入れている方にお越しいただきました。私自身も平成26年に、妻と子供2人と一緒に東京からUターンしました。鶴岡は本当に魅力があふれるまちであり、それを多くの人に分かっていたらいいと思います。Uターンの促進について、皆さんからもご協力いただきたいと考えています。ぜひ様々なご意見をお聞かせください。

**司会** 本市では市町村合併した平成17年に約14万4,000人だった人口が、令和2年には約12万4,000人に減少しています。若い人の動向を見ると、高校卒業者の6割程度が就職や就学で県外へ転出している状況です。

一方でコロナ禍の中、地方移住への

関心が高まっているという国等の調査結果もあります。

市では地域振興課に移住コーディネーターを配置し、移住定住のワンストップ相談窓口として相談者一人ひとりに寄り添い、様々な支援制度の紹介などをしています。近年は相談件数、移住件数ともに増えている状況ですが、引き続き支援制度や受け入れ体制を充実させる必要があります。

### Uターンのきっかけ、鶴岡との関わり

**持田** 私は埼玉県出身で、東京の大学の地域調査の授業で初めて庄内を訪れました。授業は1年間だけでしたが、いろんな人との出会いがあり庄内のことが好きになりました。卒業後は都内の飲食店で働いていましたが、よく鶴岡に遊びに来ていて、いつも旬の食べ物があり、この土地で全ての食材がそろうことがすてきだと感じていました。

来るたびに知り合いも増え、庄内で食事に携わる仕事がしたいと思い平成28年に移住しました。今はスイデンテラスというホテルのレストラン部門でサービス担当をしています。

**伊藤** 私は三重県出身で、大学進学のため札幌に行き、9年間過ごした後平成29年に移住しました。鶴岡では腸内環境に関する研究開発をしたくてメタジェンという会社で研究員をしています。世界中から行きたい場所の候補を挙げて考えましたが、その中から鶴岡を選んだのは、メタジェンに面白い技術があつて、ここでしかできない仕事があつたからです。そして、仕事以外の時間は、夏は海、秋は山、年間を通して温泉と庄内を満喫しています。

**工藤** 私が鶴岡に来たきっかけは、羽黒山の山伏体験修行です。その際に知り合いから庄内を案内していただき、月山と鳥海山が見える庄内平野の景色を見たときに、こんな所に住んでみた

少子高齢化を伴う人口減少の進展により、地方都市では、生産年齢人口の減少や若年層の大都市への流出による地域活力の低下が懸念されています。

このため本市では、将来にわたって持続的に発展するまちをつくるべく、移住・定住人口を増やすという課題に積極的に取り組んでいます。

今回の座談会では、「Uターン」をテーマに語っていただきました。



持田 紬乃さん

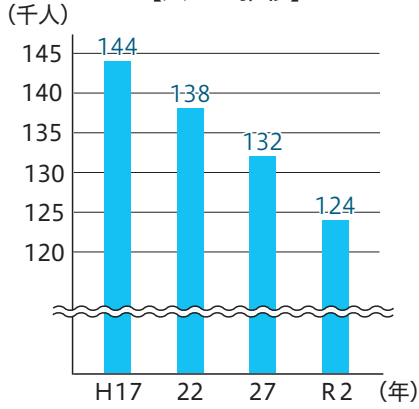
皆川 治

ヤマガタデザインリゾート(株)社員。埼玉県出身。平成28年にUターン。

鶴岡市長。大泉地区出身。平成26年にUターン。

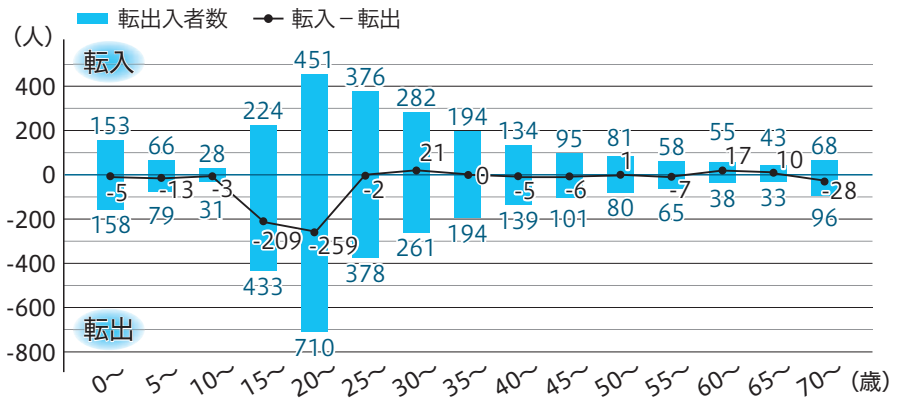
【司会】地域振興課長 伊藤 慶也

【人口の推移】



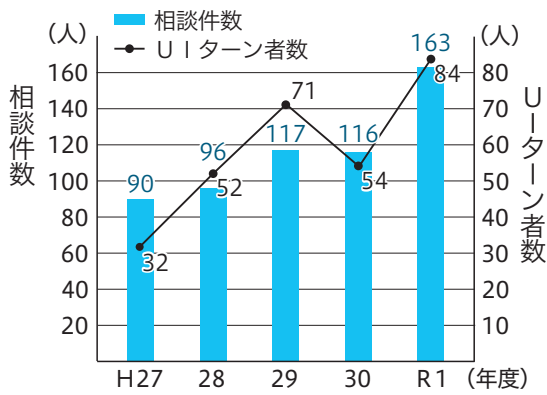
出典：住民基本台帳

【年齢別転出入者数 (平成31年・令和元年)】



出典：総務省 住民基本台帳人口移動報告

【相談件数とUターン者数の推移】



**持田** 食に携わる仕事をしたいという思いはあったのですが、インターネットで調べてみても、どういう人たちがどんな思いで働いているかということ、実際に来てみないと分からず、勤め先を決めるのは大変でした。しよっちゅう市役所に行って移住コーディネーターの方に相談させていただきました。鶴岡ワークサポートルームで自分に合ったお店などを紹介してもらったのもありがたかったですね。

**長谷川** 私は、実家のすぐ近くにあつ

いという思いが湧き上がりました。修行のため毎年夏に通うようになり、知り合いが増え、通う頻度も高くなって、移住直前には月1回は来ていました。平成29年に移住し、現在、ふだんは里でデザイナー・イラストレーターをして、夏の間は月山佛生池小屋の女将おかみをしています。

**長谷川** 私は上郷地区生まれで、石川県金沢市にある大学の工学部に進学しました。その頃はバブル経済の真っ最中で、学生でも株のもうけ話するような風潮に疑問を感じ、鶴岡で農業と兼業できる技術を身に付けたいと考え、初めは石川県、次に岐阜県で手すきの和紙作りを学びました。技術を学び終えたら帰って来るつもりでしたが、当時、携わっていた方は高齢の方が多く、

伝統技術の継承を軌道に乗せたいと思い取り組んでいるうちに25年たつてしまいました。岐阜の本美濃紙がユネスコの無形文化遺産に登録されたこともあり、一区切りついたと考え、次は東北ならではの和紙を作りたいと思い平成29年にUターンしました。

**竹内** 三瀬地区自治会で事務局長をしています。私も県外からのUターンで、帰ってきて12年になります。元々は旧温海町の出身で、祖父が出身だったということが縁で三瀬に住むようになりました。今の仕事に就いて3年目になります。地域での生活が楽しくなればいいなと思って仕事をしています。

**市長** それぞれ背景が違うわけですが、地元の人との出会いや、魅力的な仕事ができるということが、移住の決断に大きく関わっているようですね。

**仕事を見つける、始める**



三瀬地区自治会事務局 局長。温海地域出身。平成20年にUターン。



長谷川和紙工房代表。上郷地区出身。平成29年にUターン。



月山佛生池小屋女将、イラストレーター・デザイナー。東京都出身。平成29年にUターン。



(株)メタジェン研究員。三重県出身。平成29年にUターン。

た車庫を譲っていただき、そこを工房兼住まいとして改装し、和紙作りを始めることにしました。しかし、鶴岡には和紙作りの伝統がほとんどありません。ですので、排水は大丈夫なのか、騒音が出るのではないのかなど心配する方もいらっしゃいました。初めてのことで地域の人たちも不安だったんですね。

高校を卒業して鶴岡を離れ、社会人として地元に住んだことはありません。風景は一緒でも、住んでいる方や風習には変化もあります。自分の古里だとしても、地域のことをもっと知らなければいけないと思い、できるだけ会合などには出席するようにしています。地域の方に応援してもらいながらやっていきたいですね。

**工藤** 私は勇気を振り絞って40歳でインターンしたのですが、勤め人ではないフリーランスで、どこにいてもできる仕事をしていたので、移住しやすかったというところはあると思います。

一方で子育てが終わったから、地方でのんびり暮らしたいという人もたくさんいます。そういう人たちが困っているのが職探しです。正社員でなくてもいいので職を見つけないんです。求人の年齢制限の幅をもう少し広げることができればいいのになと思います。

## 住まいを探す

**工藤** 最初、住む所は知り合いの農家

の方から古民家を借りる予定でした。自動車免許の合宿教習に行っている間に、荷物を送ってしまったのですが、配管などが壊れていて、住むことができないことが判明しました。そのときに、東京の庄内好きの人の集まりで知り合い、先に移住していた持田さんに相談したら、お試し住宅という制度がちょうど始まったことを教えてもらったんです。早速、移住コーディネーターさんに連絡を取ったら、すぐに利用できるように配慮してもらい本当にありがたかったですね。

**持田** 私のおときは、東京にあるふるさと回帰支援センターで相談もしましたが、実際に鶴岡に来て探さなければいけません。車を持っていないかったので通勤範囲も分からず、住む所を決めるのに時間が掛かりました。移住には初期費用が結構掛かるので、お試し住宅を使えたのはうらやましいですね。

**伊藤** 妻と犬2匹と一緒に引っ越さなければいけなかったんですけども、当時は、ペットを飼える物件が全くありませんでした。就職することは既に決まっていたので、地域振興課にメールをして、移住コーディネーターさんに相談しました。つるおかランド・バンクの方がなんとか探してくれて、生活を始めることができました。

**司会** 三瀬地区ではこの10年間で30組の移住を受け入れたそうですね。空き家の紹介もしていると伺っています。

## 鶴岡Uターンサポートプログラム

首都圏在住者を対象に、本市でのフィールドワークと東京での研修を通して本市への移住を具体的に検討するプログラム。  
※今年度はオンラインで実施。写真は令和元年度の様子。



▲鶴岡でのフィールドワーク



▲東京での活動報告会

**竹内** 地域の不安解消の一環で、雪かきが困難な方と手伝いをする人をマッチングしたり、自治会で婚活イベントをしたり、地区、地域の人々を巻き込みながらの取り組みが自治会にあり、私も最初は住民として楽しみながら参加していました。その活動の一つとして空き家の掃除もしています。

コミュニティセンターは地域の窓口みたいなところですので、外部の方から空いている家がないかという問い合わせが少なからずあります。

中には、清掃した空き家を借りて、その後結婚し、引き続き住んでくれる人もいます。その方は地域の人とよくコミュニケーションを取ってくれる人で、やっぱり人と人のつながりが大切なんだと感じています。

**市長** 持田さんが移住したときにはお

試し住宅がなかったということですが、今は市営住宅を低額で最長1年間貸し出すという形で実施しています。また、移住者向けにリフォーム支援の補助金も設けています。少しずつ住環境への支援の拡充を図っているところです。

**工藤** 私も移住の相談を受けることが結構あります。そこで一番ネックになるのが、空き家はたくさんあるけど、貸せない状態だということです。東京から来る人は、便利な生活を求めている人は少なく、歴史が感じられる所や、山間部など自然が豊かな所に住みたいという希望があります。しかし、そういう地域には貸家が少なく、うまくいかないことが多いようです。いろんなケースの希望に応えられるようになればいいと思います。

**伊藤** 空き家にある家財道具をどうす



▲東京で開催された「やまがた暮らし大相談会」での鶴岡市ブース。リモートで地域振興課とつなぎ相談を行いました。

ればいいか分からないというのも課題かも知れません。私の家も元々貸し出す予定はなかったそうなのですが、使わない家財道具を一部屋にまとめ、その部屋は使わないという条件でなんと家主さんに了承していただきました。**竹内** 移住希望者からの依頼で家を探すときには、私の友人や同級生など、所有者の周りにも声を掛けるようにしています。これまで家を貸すという感覚がなかったので、売りたい気持ちはあるけど貸すのはためらうということがあると思います。例えば仏壇がまだあるとか、それぞれの事情や思いがあると思うので、貸す側への支援があるとより移住者を迎え入れる環境が作りやすくなるのではないのでしょうか。

**市長** 住まい探しは、その人に合わせてオーダーメイドで相談に応じないといけない問題ですね。地域振興課が中心となっていますが、例えば市営住宅は建築課が担当ですので、市役所内の横の連携をより一層強めていくことが大切です。また、各地域の自治会等との連携も進めていかなければなりません。希望に合った貸し物件が少ないということについては、貸し手側への支援も考えられる手法の1つですね。

### 分かりやすい情報発信、移動手段の確保が必要

**伊藤** 移住してきた5年くらい前には、おいしいお店や遊びに行く所を探すのは友人からの口コミが最有力でしたが、この2〜3年でGoogleマップ上の評価やコメントが頻繁に更新されるようになったので、どこに何があるのかはとても調べやすくなりました。

一方で、行政から発信される情報や、いつ何が起きているかについての情報はまだ探しにくい印象を受けます。公式な情報は市のウェブサイトに掲載されているのですが、逆に言えばそこしか載っていない。アクセスしやすい情報発信の必要性を感じています。

特に、今起きていることの情報を知るすべが少なくと感じたのは豪雨や山形県沖地震のときです。テレビでは内陸の情報がほとんどで、鶴岡市の映像は同じものが繰り返し流れていて最新情報が全く分かりませんでした。例えば

ば都市部では、あそこのマンホールが噴出しているといった情報を誰かがツイッターで発信してくれるのですが、鶴岡ではなかなかそこまで情報の密度がない。家から出なくてもつながれるコミュニティラジオのようなローカルな情報共有の必要性を感じました。

私は、川沿いに住んでいるんですが、ダム放水の放送があっても、それが近くの川のことなのか、避難した方がいいのか、初めてのときには分かりませんでした。また避難先が、学区単位で伝えられるのですが、我が家には子供がいないので、どこに避難するのも分かりませんでした。

**工藤** 鶴岡は魅力がいっぱいある所ですけれども、移住する前に通っていた頃、旅行者の知りたいことがまとまった便利なウェブサイトがありませんでした。鶴岡までの移動や、市内をどう回ればいいのかという情報をもっと得やすくなれば良いと思います。

また、観光客として通って、地域の良さを知り、移住するケースも多いと思いますが、庄内を観光するのにバスでの移動が不便だと思います。東京の人たちは免許を持っていない人が多くレンタカーも借りられません。タクシーではお金が掛かってしまうので、バスでの移動が中心になります。そうすると選択肢から外れてしまう観光地が出てくるんです。今年も何人かに「生まれ変わり」ができない出羽三山参りだと言われてしまいました。シャトル

バスなどで庄内を巡りやすくしていただき、もつと鶴岡の良さを知ってもらいたいですね。

**持田** 私も移住する前、行きたい所がたくさんあったんですが、バスだと行ける所に限りがあつて、知り合いの車に乗せてもらうなどしていました。

**工藤** 乗り継ぐのも大変ですよ。  
**持田** どういうルートで行けるのか情報がほとんどなかったり、1本乗り遅れると次のバスまで1時間待ちだったります。もう少し交通の便が良くなるとういいますね。

**市長** 移住した方や鶴岡を訪れた方に寄り添った情報発信が求められますね。公共交通については路線バスを運行する庄内交通にも頑張っていたと思いますし、市が代替路線を用意するというのもしています。昨年10月には温海地域の

各種支援制度や先輩移住者の体験等を紹介する鶴岡市のリーフレット。本所地域振興課などで配布しています。



『KiRo (キロ)』  
各種支援制度や先輩移住者の体験等を紹介する鶴岡市のリーフレット。本所地域振興課などで配布しています。

で乗り合いタクシーの取り組みを始め  
ていますが、観光政策と地域住民の移  
動手段確保をうまく組み合わせて検討  
していくことが必要だと思えます。

## 行政や地域の役割

**長谷川** 今、子育てをしている方の多  
くは日々の暮らしに一生懸命で、鶴岡  
らしい生活やゆつたりとした大人の時  
間を持っていないのではないかと思  
います。子供たちは努力をして大学に  
進学し、期待に応えようと大手企業へ  
の就職を目指しますが、反面、鶴岡に  
帰ってくるという選択肢が少なくなっ  
てしまいます。都市部にはない鶴岡ら  
しい楽しみ方もあるはずなので、生涯  
学習や芸術などの創作活動を、親世代  
がすることを市から応援してほしいで  
す。仕事も余暇も楽しむ大人の姿を見  
て育った子供たちが、Uターンで鶴岡  
に帰ってくるイメージを持つことにつ  
なげるのではないかと思います。

**市長** 子供たちに鶴岡で暮らすイメー  
ジを持つってもらうことは重要だと思  
います。子供の数が減っているので、地  
元の企業や事業所ではできるだけ地元  
に残ってもらいたい、また、戻ってき  
てもらいたいと思っています。今年  
は新型コロナウイルスの影響で開催を見  
合わせましたが、市では高校生が企業  
に見学に行くだけでなく、その保護者  
の方から企業を見てもらうという事業  
を実施しています。子供の進路選択に

は保護者の意向が影響することもあり  
ますが、なかなか自分の職場以外のこ  
とは分からないということがあるので、  
地元企業のことをよく知っていたら  
という取り組みです。

また、高校生だけでなく、中学生・  
小学生も含めて、地元の仕事の状況を  
早い段階で学ぶ機会をもつと用意して  
いかなければいけないと考えています。  
**伊藤** 私は移住する前に、一度そこで  
暮らしてみたいなと思うんです。これ  
からリモートワークが増えてくると、  
今日来て1週間から1か月ぐらい滞在  
できる所があればいいなと思います。

**司会** 小堅地区にはシェアハウスがで  
きて、移住者を受け入れる取り組みが  
行われています。また、リモートワー  
クを活用しながら休暇をとるワーケー  
ションという取り組みも市内各温泉地  
で始まっています。

**伊藤** 私の家の近くには温泉があり、  
気が向いたら朝風呂に入って、夜も入  
って、また仕事をするといいことがで  
きます。そういう生活に憧れている人  
は多いのではないかと思います。鶴岡  
にはほかにも温泉がたくさんあるので、  
その周辺を拠点にしたワーケーション  
ができれば、すごく行きたいですね。

**工藤** 仕事関係でいうと、地域で横の  
つながりを作るきっかけがなかなかあ  
りません。仕事につながるような交流  
会があってもいいのかなと思います。

**市長** 年初めに新年名刺交換会を開催  
していますが、どちらかというと地元

の大きめの企業の交流の場になってい  
ます。移住して起業したばかりの方や、  
勤め始めた方が情報交換できる場があ  
ったらいいですね。

**伊藤** 鶴岡に来て驚いたのは、農家さ  
んとつながるといろいろお裾分けを頂  
けることです。そういった横のつなが  
りのおかげで、食べ物がなくて生きて  
いけないということがない、豊かな土  
地なんだと実感しています。それも自  
治体の魅力の一つだと思うのですが、  
もう1歩進めて、鶴岡にいると健康に  
なれるということを加価値としてア  
ピールできればと思います。

鶴岡サイエンスパークができてから  
20年近くたちますが、地域の人からは、  
具体的にどんな研究がされているのか  
まだあまり知られていません。この5  
年くらいで大学の研究成果を活用した  
ベンチャー企業ができ始め、ようやく  
地域の皆さんにも還元できる体制が整  
ってきたと思います。私たちも一緒に  
市民のヘルスケアに取り組んでいき  
たいと考えています。

## Uターンにつなげる、受け入れる

**司会** 移住というのは、鶴岡に関心を  
持つことから、さらに鶴岡のことを深く  
知り、時間を掛けて決断するとても大  
変なことだと感じています。最後にU  
ターンを考えている方や受け入れる  
市民の方へのアドバイスなどをお願い  
します。



## 住宅支援

- ▶つるおかランド・バンク ☎0235 - 64 - 1567  
「空き家バンク事業」を通じて、市内の空き家・空き地の情報を発信し、購入希望者と所有者をつなぎます。
- ▶新築に対する支援 本所建築課内「つるおか住宅活性化ネットワーク」事務局 ☎内線484  
移住・新婚・子育て世帯等の若者世帯が、地元業者の設計・施工により、鶴岡産木材を使った「つるおか住宅」を新築する場合に助成します。
- ▶住宅リフォームに対する支援 本所建築課 ☎内線484  
一定の要件を満たすリフォーム工事や耐震改修工事に対して工事費の一部を助成します。移住世帯や子育て世帯等向けの支援もあります。
- ▶お試し住宅 本所地域振興課 ☎内線585  
県外在住の移住希望者（転勤、市在住者との結婚、進学を除く）の方を対象に、市営住宅を低額で提供（1か月～1年間）します。

## 就職支援

- ▶鶴岡ワークサポートルーム ☎0235 - 25 - 2215  
市内事業所とU I ターン希望者との就職の仲介を無料で行っていきます。
- ▶鶴岡地区雇用対策協議会 鶴岡商工会議所内 ☎0235 - 24 - 7711  
U I ターン希望者向けに、市内企業との仲介や情報提

供を行っています。

## 就農支援

- ▶農業経営者育成学校「SEADS（シーズ）」 本所農政課 ☎内線562  
農業の基礎から経営に必要な全てを2年間で研修。その後の就農、定着まで支援します。
- ▶U I ターン就農者支援事業 本所農政課 ☎内線576  
U I ターン就農者の住宅家賃及び農業機械・ハウスリース料、農地賃借料に対して補助金を交付します。

## 移住支援金等

- ▶移住支援金 本所地域振興課 ☎内線586  
東京23区に居住・通勤していた方が、山形県のマッチングサイトに掲載された中小企業に就業した場合、移住支援金として最大100万円を支給します。
- ▶移住世帯向け食の支援事業 本所地域振興課 ☎内線586  
山形県外から移住した世帯に対して、米・みそ・しょう油を1年分提供します。

支援制度の詳細はこちら

鶴岡市移住・定住促進サイト  
「前略 つるおかに住みマス。」



**持田** 私も鶴岡に移住したいという気持ちがあったものの、ここで何がしたいのか、すごく悩んだ時期がありました。ちよっとしたきつかけや出会いが移住につながることもあると思うので、興味のある方は、気軽に鶴岡に遊びに来たり、東京などで行われている庄内や山形に関わるイベントに参加したりすることからスタートしてみるのも良いかなと思います。

**工藤** 庄内への移住に関心のある方が集まる会で、移住者として呼ばれお話しさせていただいたことがあります。そこで知り合った方といまだに交流が続いています。

市民の皆さんも自分との関わりがきっかけで、誰かが庄内を好きになり、住んでくれるかもしれないということを中心に置きながら、外部から来た人に接してみるのはいかがでしょうか。それは双方にとっていろいろな可能性が開かれることだと思います。

**伊藤** 私の友人で庄内の熱烈なファンがいるんですが、毎月のように遊びに来ては、鶴岡の新しい魅力を見つけて帰ります。同じように、ほかの地方にも通っていて、いつの間にか庄内の人と向こうの人をつなぐようなことをしているんです。そして、それが地域同士の新しい取り組みにつながるとうのを実際に目にしています。より多くの人に鶴岡の魅力の深さを知ってもらうことが大切だと思います。

**長谷川** 私は石川県と岐阜県にいます。私たちが住んでいた地域で鶴岡のことを知っている人はほとんどいませんでした。知らない所に移住するというのは、難しいことですので、情報を発信していくことが重要だと思います。

また、移住者を迎える体制を作っていくためには、U I ターンした人などのいろいろな声を集めて、私たち市民自身が変わっていくことも大切ですね。

**竹内** 三瀬では孟宗掘り等の自然体験などを開催していますが、小さい地域であっても活動していることをもっと知ってもらう必要があると思います。外部の人から、休みの日で時間が合ったときに、何かやっているからちよつと顔を出してみようかと思ってもらえたらうれしいですし、そこから私たちのコミュニティに入ってもらえる可能性も出てきます。地域として、迎える体制作りと情報発信の両立をしていきたいと思っています。

**市長** 皆さんから、改めて鶴岡の魅力をお話しいただきました。そして、仕事のこと、住まいのこと、交流の場、情報の発信などについて、貴重なご意見を頂きました。

鶴岡は各地域がそれぞれ個性を持っています。その魅力を生かした地域ぐるみでの受け入れ体制作りが、鶴岡市全体に広がり、本市がU I ターンの先進地になるよう取り組んでまいります。本日は貴重な意見交換をさせていただきありがとうございました。

**一同** ありがとうございます。